



詳細は2・3P

運動公園、済生会病院
LRTでつながろう

LRT部会勉強会を開催

第2回

活動報告

8月26日(土)～27日(日) LRT勉強会
8月28日(月) 駅の文化祭(福鉄美化)アンケート提案・高等学校校長会
9月5日(火) まちづくりフェア打合せ
9月6日(水) 講演(中部地区労/越前市)
9月6日(水) 福井市地域生活交通活性化会議
9月8日(金) ボランティア・NPOの集い
9月10日(日) まちづくり交流会
9月13日(水) IRE LRT研究会
9月15日(金) 例会・理事会

今後の予定

9月18日(月) サイクルトレイン・三国
10月11日(水) IRE LRT研究会
10月20日(金) 例会・理事会
10月20日(金)
～22日(日) 全国路面電車サミット(長崎)
10月28日(土) まちづくりフェア共催
「まちなかおもしろクイズ」

ゆうじんの部屋 書籍紹介

脱ファスト風土宣言 商店街を救え!

三浦展編著 2006.4.21

洋泉社 840円+税 ISBN4-86248-020-9 C0236

この欄で「ファスト風土化する日本 - 郊外化とその病理」という同著者の本を紹介したが、そうした時代の逆風の中で、うまくいっている事例、こうしたいという理想を8人の著者が紹介するものである。

結論はクルマでは来難いが、公共交通では来易く、人も住んでいる町がいい町である。たまたまそうなった下北沢や自由が丘、意識的にそのようなまちを作ろうとした事例などが読み取れる。クルマが入ってこない、歩いて快適、フリーマーケットなど多様な魅力、どこかで経験したと思ったら、イオンショッピングセンターの中に屋台村みたいなのがあれば・・・大資本は必ずやそうした空間を設計してくるだろう。

中心市街地がこの本に触発されて魅力アップした時には、もう郊外のショッピングセンターはその次をめざしているだろう。

美濃部 雄人 Minobe Yujin

第2回 LRT部会勉強会を開催して

060826~27 高橋 八州太郎

本年第2回のLRT部会勉強会を8月26日の夜と27日の昼間の2回に分けて開催しました。講師は関西大学大学院の松原光也氏で、地理学を専攻しており北陸の4都市の地理学的見地からLRTのシステム導入を研究されている方で、RACDA高岡の会員でもあります。

今回の勉強会は、今年度末にROBAとしてLRT構想をまとめる上で、必要な理屈上の観点をどうしたらよいかを考えるための勉強会と位置づけております。

タイトルは氏の研究テーマでもある「コンパクトシティを目標とするLRTシステムの地理的要因～福井スタディ～」と題して、1日目の26日は夜6時より「手寄地区市街地再開発組合事務所 会議室」にて開催しました。7名の参加がありました。

副題として「福井のLRT構想」とし、スライドによる発表を30分、質疑応答と福井でのLRT構想等を約1時間30分予定した。

GISデータを用いて、福井市のコンパクトシティ度を算出するなど、今までにない新たな切り口で福井市の特徴を浮き彫りにしてくれた。鉄道駅から直線距離400mの範囲内（駅勢圏）に何人の人口がいるか。氏の計算によると、福井の場合は17.8%。この駅勢圏内に従事者の割合が33.5%。そしてこの2つの数字を乗じることで、鉄道通勤利用分担確率とすると、 $17.8\% \times 33.5\% = 6.0\%$ となる。これは確率の問題となるが、氏はこれをコンパクトシティ度と表現している。同じように駅勢圏内の高齢者比率を見ると、22.2%、これに駅勢圏内の医療施設の割合を乗じて鉄道通院利用分担確率を見ると9.1%となる。病院は駅勢圏内多く立地されているが、駅勢圏内に居住している高齢者が少なく、コミュニティバスなどの連携が課題であると指摘。同じように、駅勢圏内の学生（小中除く）数は16.9%、その鉄道通学利用分担確率は5.2%であることがわかった。このことから、学生が鉄道を利用して通学することは低いと結論。また、人口密度が8000人/km²、65歳以上人口密度2000人/km²の地域はLRTを配置する意味は大きいのではないか？と分析。例えば、城東1丁目、花月3・4丁目、足羽2丁目などがその候補になるという。よく考えてみると、コミュニティバスのルートに酷似している。何となく、松原氏のいうことが妙に実感として理解できた。

また、えちぜん鉄道と新幹線問題についても学習し、また塚谷会員の独自市内中心部のLRT構想なども議論のネタとして出され、参加者で議論が集中した。終了後、場所を変えておでんを囲んで懇親会を持った。



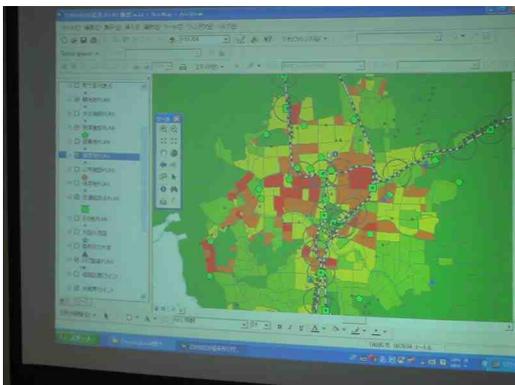
資料をもとに説明する松原講師



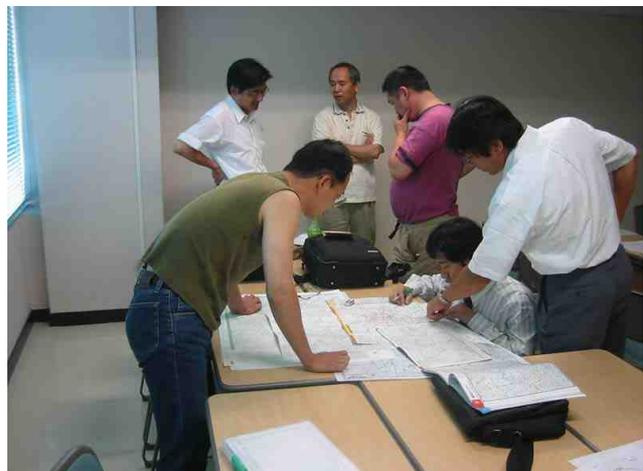
質問会

2日目は朝9時30分より、福井県民活動センターにおいて、「北陸4都市における公共交通復権の動向」と銘打って、スライドによる報告、質疑応答の後、福井でのLRT構想の整理をする次第で始まった。各都市のコンパクトシティ度を松原氏のレポートから抜粋して下記に示す。面白い特徴が出ていることがわかる。

	高岡市	福井市	富山市	金沢市
駅勢圏内面積率	7.5	4.0	9.2	1.7
駅勢圏内人口比率	15.9	17.8	21.0	8.8
駅勢圏内従業者比率	27.5	33.5	36.4	9.2
駅勢圏内高齢者比率	17.5	22.2	22.5	7.9
駅勢圏内学生比率				
鉄道通勤利用分担確率	4.4	6.0	7.6	0.8
鉄道通学利用分担確率	4.7	5.2	10.7	0.2
鉄道通院利用分担確率	4.0	9.1	4.9	0.4
鉄道買物利用分担確率	4.0	2.3	7.4	1.1
DID人口密度	4,049.6	5,356.7	4,117.1	6,321.3
自動車保有台数/人	0.522	0.528	0.530	0.487



GIS を使って分析



具体的なルートの検討

表でわかるとおり、中心部に鉄道網がない「金沢市」は数値が低い、市内交通の充実している「富山市」は数値が高い。

LRTの新設の場合、地理学的見地から見ると、東西の基幹公共交通として運動公園から済生会病院までをLRTで繋いではどうか？との大きな提案をいただきました。充分検討に値する提案だと思いました。

以上、駆け足ですが、LRT部会の報告とさせていただきます。今後の福井でのLRT構想計画の中で生かしていけるよう研究いたします。

駅の文化祭(美化運動)を行なうにあたって、事前のアンケートを福井鉄道を利用する高校生に依頼しました。具体的には8月28日福井県高等学校校長会でその願いをし、9月4日に高校ごとにアンケートを送付しました。

下記は、アンケートの依頼状とスケジュール(案)、次ページはアンケート本文です。

アンケートのお願い

私たちは、NPO法人ふくい路面電車とまちづくりの会と申します。公共交通をよりよく使いやすいものにするために日ごろ活動しています。そして、今回は、高校生の皆さんに、「駅」について考えてもらいたく、このようなアンケートをお願いしております。

普段、何にも気にしないで過ごしていますが、「駅」は、人々が集まり、行き来する移動と交流の場です。この、駅を、もっと過ごしやすいものに変えてみませんか？

さらに「駅」は出会いの場、出発の場、別れの場でもあります。クルマなどの移動手段を持たない高校生の皆さんにとっては、「駅」は移動するための大切な拠点であります。そこで、「駅」を、『自分の家』、『部屋』の延長上と考えると、どうでしょうか？使いやすいしたりきれいにしたりして整理整頓をするはずです。

そういう視点で、普段使っている『駅』をこのアンケートや駅の美化を考えることにより、少しでも見直す機会にしてもらいたいと考えております。

皆さんの率直な意見をお願いいたします。

平成 18 年 9 月

駅の文化祭実施スケジュール(案)

8月28日(月)	駅の文化祭(福井鉄道駅の美化活動)実施にあたって、事前アンケートの提案
9月上旬	高校ごとにアンケートの実施
9月15日(金)	アンケートの回収期限
9月20日(水)	アンケートを担当の高校に集中
9月21日(木)	ROBAにてアンケート回収
9月下旬	アンケート集約
9月末	実施高校にアンケートの結果報告 (美化活動参加者一覧作成)
10月上旬	美化活動参加者数と駅の分布状況を見て、実施駅を協議、決定 該当高校に報告、日程調整、参加者へ要領を通知、
10月中旬	第1回美化活動：とりあえずは駅に集合してみんなで考える。 第2回以降は参加者グループで決める。
11月下旬	本年度の活動を終了
12月上旬	学校関係者、参加者、ROBA会員による報告会を開催

第 1 回福井市地域生活交通活性化会議の報告

内田桂嗣

日時：平成 18 年 9 月 6 日 10:00～ 12:00

場所：福井市市役所 6 F 会議室

議題 1、委員紹介

座長	川上洋司	(福井大学教授)	
利用者	加畑一三	(福井市自治会連合会会長)	
	々	森下珠江	(福井市連合婦人会会長)
	々	金牧富美子	(福井市老人クラブ連合会理事)
	々	安野建夫	(福井市 PTA 連合会会長)
	々	高氏克彦	(福井県高等学校 PTA 連合会事務局長)
	々	内田桂嗣	(ふくい路面電車とまちづくりの会会長)
交通事業者	島 洋	(えちぜん鉄道 取締役鉄道部長)	
	々	福田有男	(福井鉄道 取締役自動車部長)
	々	矢崎孝明	(京福バス 乗合事業部長)
	々	宮川雅敏	(まちづくり福井 常務取締役)
	々	鎌田正弘	(光タクシー 常務取締役)
行政	大塚義博	(福井市 市民生活部長)	
オブザーバー	笹井博見	(福井県総合交通課課長)	

2、議 事

会議の概要

会議の目的、位置づけ、その構成の説明があった。生活交通の維持確保及び活性化、利便性向上について考える場

公共交通の現状

P T 調査の結果 (2005 年) や鉄道、バスの利用者の減少、地方負担の増加をグラフや数字で説明。

公共交通に関する基本的な考え方

限りある資源を活用した公共交通体系とそのイメージ図を示す。これまでの課題と実施した施策の確認をした。

議題と今後の進め方

バス、鉄道の課題の改善方策の検討と市民参加型の MM (エリィ・マサ' ムト) 等のあり方を検討。

3、その他

年 3 回を予定。当面 1 年 進行を進めるために検討会 (WG) を立ち上げる

次回は 11 月を予定している

(感想)

交通弱者側の利用者が参加しているため公共交通に対する不満は大きい。しがしながら、個々の苦情を解決する場でないので、市民生活に寄与する公共交通を限りある資源を有効活用して、将来のまちづくりに今何をすべきかしっかり議論しなければならない。

このような場のスタートとしてはちょっと遅かったが、前進させるチャンスでもある。幸い座長が川上先生なので、これを機会に風をおこしたい。そのためにも、検討会には ROBA メンバーが積極的に関わられるようアプローチをしなければならないだろう。

『まちづくり交流会』に参加して

記・内田桂嗣

この会議は福井市の市民協働推進課が主催したものです。地域のまちづくり団体や公民館活動、NPO活動を通じて生ずる問題や課題を、交流を通じて一緒に考えようというものです。

ROBAからの参加者は高橋、塚谷、内田の3人でした。

第一部は講演と活動実践発表。第二部はワークショップ。参加者30名が4班に分かれて、活動上の課題・問題、そしてその解決策について討議しました。



(ワークショップの様子)

日時：平成18年9月10日AM10:00～16:00

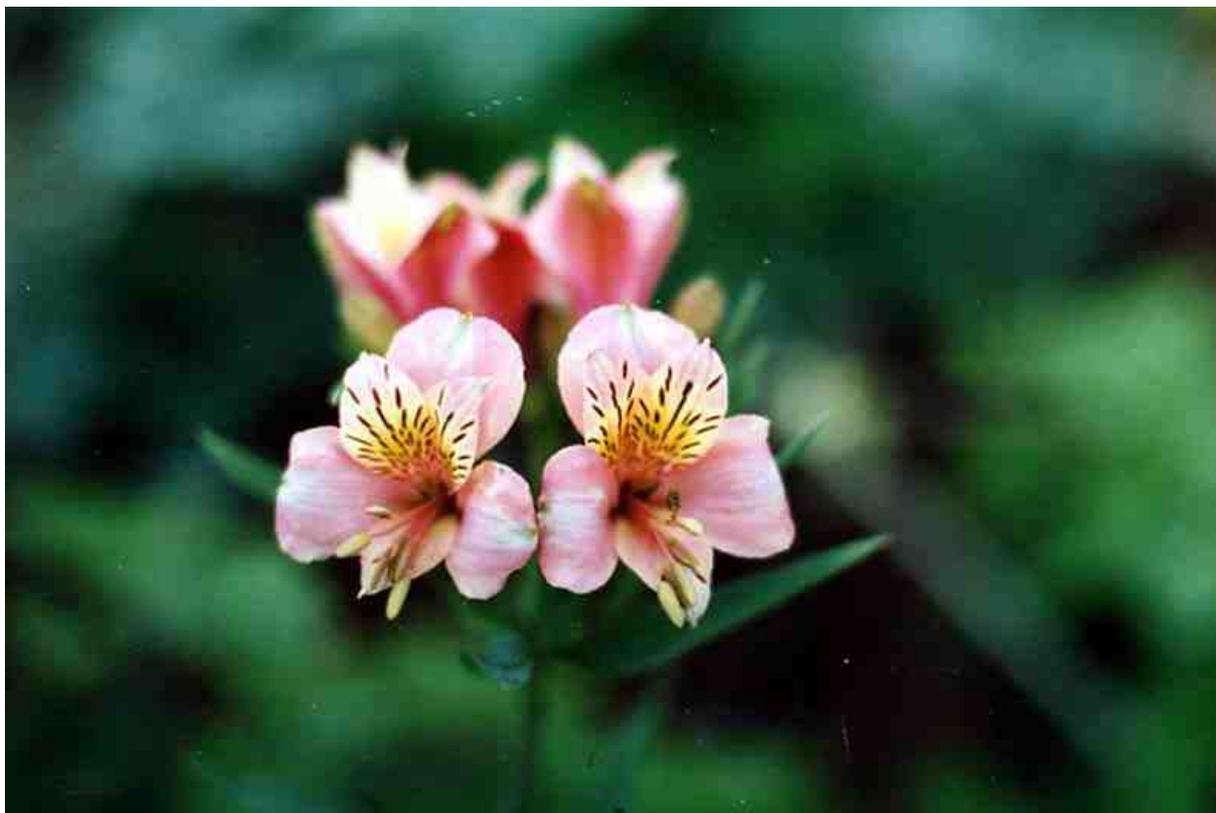
場所：福井大学文京キャンパス

内容：第一部 基調講演&実践発表

講師：(有)大久手計画工房 代表 伊藤雅春氏

実践発表：田原町デザイン会議、夢工房松本

第二部 グループディスカッション



アルストロメリア

撮影 / HAYASHI TERUO

公共交通とまちづくり出前講師報告 060906 林 博

越前市の労働福祉会館でおこなわれた、中部地区労働福祉平和センターの「環境にやさしい公共交通を守る学習会」に出前講師として参加してきました。大雨洪水警報の出る中、老壮男女 40 名もの参加を得て、バス電車事業者の労組組合員の本音と悩みを含めて意見交換してきました。

会社を定時に終了して、福鉄電車、福鉄バスに乗り継いで、会場まで行きました。乗り継ぎ時間は3分、乗り継ぐバスは1日1便の115b 武生越前海岸線（安養寺経由）、電車は2分ほど遅れてハラハラしながら到着。先頭の出口から跳び降りバスターミナルへ、バスは出掛かっており乗車と同時に出発、1mほど進んですぐ止まり、電車から一緒に降りたらしき高校生二人を乗せ、再度出発。ホーム to ホームだったらいいのになあと、つくづく感じました。（乗り遅れたらどうするんやろ、織田なら115aはあるけど、それなら神明駅で降りてるやろうし??）

勉強会は「ホジロバマップとまちづくり」のパワーポイント、全国都市再生まちづくり大会で発表したものを、少しアレンジしてROBAの紹介も加えて、最後には参加者への問いかけも付けて説明しました。（ROBAアーカイブスにそろそろ登録します）

参加者の手元には、説明用にもちろんのりのりマップを配布していただいて、50部のお買い上げ、まいどあり。

Q：鯖江市のコミュニティバスの利用者が減っている。サービスする範囲を広げすぎて、かえって使いにくくなっているのかもしれない。どうしたらいいか。

A：方法は二つ考えられる。1つには、1時間に1,2本の基幹バスを東西に走らせて、そのほかの路線は基点につなぐバスや乗合タクシーにする方法がある。ただし、声だけが大きい人もいるなか、1ルートに絞り込めるかが課題。あわら市、美山も失敗している。2つ目には、徹底的に需要調査を行いニーズにあった対応をする。手間が係るのが課題。

また、こちらからの問いかけとして、

歩自路バマップを欲しい人や(18+15)/80の交通弱者に届けるために、行政や事業者、市民団体は何ができるか。知恵をください！

お年寄りには、区長会長さんを通じて配布したらどうか。このマップではお年寄りには難しすぎて、目的別に通院用などのマップや、また、個人向け情報も必要なのでは。

（NPOとしても将来的には、個人向け情報の相談受付やサービス提供も必要か？）

クルマだけに頼らざるをえない社会から脱出するために、みんなの理解をどのように得たいのでしょうか。

ここが一番大事で、労組としてももっと利用者の確保に努めなければいけないことがわかったが、難しい。今後も協力してやっていきましょう。（収穫かな？）

往きは良い良い帰りは怖い、帰りのバスはなく、やむなく武生新駅まで送ってもらうことに。帰りの電車の中では、ついつい乗客調査をやってしまいました。8時半の武生新発で15人ぐらいが乗車、福井新までにほとんどが降りてしまい、武生福井間よりも起点駅と沿線地区との足になっていることを再確認。また、マップ改訂についても考えをめぐらせ、今月中にMAP部会を開かなきゃいけないことに気がつきました。皆さんよろしく。

FBC ラジオに生出演(塚谷 康夫)060905

福井新聞社バス停近くの FBC 本社は、ショッピングセンターエルパのすぐ隣です。板垣にあった頃に比べてずいぶん立派な社屋になった建物に入ると、入口からスタジオが丸見え状態でちょっとビックリ。県社協の島さんも合流して、しばらく打ち合わせをした後、いよいよ本番となります。



正午過ぎ「げんき一番」がスタート。その番組では9月をボランティア月間とし、様々なボランティア活動を取り上げていて、「まず一歩、心ほっこり ボランティア」として ROBA の活動を紹介することになりました。本番中は少し緊張しましたが、「バス停バリアフリー調査」や「のりのりマップ」の活動を紹介した後、自分が活動にかかわったきっかけとなった出来事などのエピソードを披露。

最後に公共交通の利用を呼びかけもして、何とか数分間の出演を無事勤め上げました。ボランティアとしての活動報告が主体だったので、自分の思っていることを十分に伝え切れない面もありましたが、このラジオを聴いて少しでも多くの人が「のりのりマップ」を手にしてくれたらいいなと思いながら、帰りのバスに乗りました。

作 / 漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「我家の田はハサカケ(自然乾燥)にしました」

塚谷(副編集長)

「市の社協のことを県と言ってしまいました」

内田(発行責任者)

「駅美化アンケート、高校生諸君!ちゃんと答えてね。」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail : roba@mbh.nifty.com

URL : <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>